

大地震に備えよう

約1000人が防災訓練

地域住民が
バケツリレーや起震車体験

東日本大震災から2年になるのを前に、3月10日、美濃山地区とくすのき地区で防災訓練が行われました。

同訓練は各地区自治連合会の主催で、東南海・南海地震に備え、地域の防災力向上を図ることが目的です。地域住民や消防団など約1000人が参加し、避難ルートや災害発生時の行動などを確認しました。

美濃山地区／くすのき地区

美濃山地区では、全員の避難が完了すると、参加者たちは4グループに分かれて、バケツリレー消火訓練など4種の訓練に取り組みました。

また、会場には起震車も設置され、震度7の揺れの中、必死に机などにつかまりながら阪神淡路大震災時の揺れの大きさを体験していました。

くすのき地区では、シェイクアウト訓練を実施し、参加者たちは頭を守りながら身をかがめるなど、有事の際に備えていました。

美濃山地区の訓練に参加した大石雅さん(10)、二口紗弥さん(7)、綾介くん(5)は「地震体験は怖かった。実際に起こった時は家族で協力することが大事だと思った」と災害への思いを新たにしています。



- ① 負傷者を車椅子に乗せて避難する参加者
- ② 地震体験をする参加者
- ③ バケツリレー消火訓練をする参加者
- ④ 救命措置体験をする参加者
- ⑤ シェイクアウト訓練をする参加者

「福祉のつどい」開催

絆
みんなで創ろう

点字など体験 ステージ発表も



「第4回みんなで創る福祉のつどい」が3月9日、市役所前広場などで行われました。

同つどいは、八幡市社会福祉協議会などで行われる実行委員会の主催で、市内活動団体や参加者同士の絆を強めるのが目的です。

会場では点字や車椅子などの体験コーナーや活動団体の展示コーナー、ステージ発表などを行いました。

点字器を使って点字の作り方を体験する親子連れ

参加者は6つの点の盛り上がりによって、目の不自由な人に文字や数字を伝える点字作りに挑戦。

また、砂利が敷き詰められたり、傾斜が設けられた模擬コースを車椅子で走る体験などをしながら福祉への理解を深めました。

車椅子体験をした谷河さくらさん(7)、ももちゃん(5)は「走ることも扉を開けるのも大変だった。利用者の方を見かけたらお手伝いをしたい」とこやかに話していました。

まちの話題

匠の技に感動

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

焼において、初めて金色の焼き色の出し方を完成させた陶芸作家。

市内在住の3人の美術工芸作家の作品を集めた展覧会が3月9日〜24日まで、松花堂美術館別館で開催されました。

同展は全国で活躍する、村田岱観さん、鈴木富雄さん、伊藤泰三さんを広く知ってもらおうと同館などが企画しました。

村田さんは日本独特の手彫り技法を受け継ぎ、多くの功績に対する尊称「大佛師」の称号を賜った仏像彫刻家。鈴木さんは美濃焼の一種で約400年の歴史をもつ志野

市在住の美術工芸作家が展覧会



▲3人の作品に見入る親子連れ

伊藤さんは北海道小樽市で腕を磨き、数々のコンテストで賞を受賞されているガラス工芸作家です。

会場内には、八幡の桜が月明かりを受けながら舞う様子を表現した花瓶「桜月夜」など約100点の作品が展示され、来場者たちは3人の匠の磨き抜かれた技の競演に見入っていました。

家族で訪れた加藤克彦さん(42)は「どの作品も力強さと繊細さが合わさっていてすごいです」と驚いていました。